



先日、レストランで食事をして  
いると、隣の席で、二歳ぐらいの  
男の子が虫の居所が悪かったらし  
く、大声を出して騒いでいました。  
父親はその子どものご機嫌をと  
りながら懸命にあやし、母親はも  
う一人の生後数カ月の赤ちゃんの  
面倒を見ていました。男の子は父  
親があわてて注文したアイスクリ  
ームを食べてようやく静かになり  
ましたが、しばらくするとまた騒  
ぎ始めました。両親も食事や会話  
どころではないようで、周囲の様  
子に気を配りながら、早々に引き  
上げていきました。

そんな様子を見ながら、同じ場  
所で以前不愉快な思いをしたこと  
を思い出しました。五人ほどのお  
母さん方のグループでしようか、  
食事とおしゃべりに夢中になって  
いました。その周りで、五・六人  
の子どもたちがいすの上をはね回  
ったり、大声を出しながら、駆け  
回ったりしていました。当然お母  
さん方が注意して食事時のマナー  
を教えるのかと思っていました  
が、気にする様子もなく、そのま  
まおしゃべりを続けていました。  
周囲のお客さんも迷惑そうな顔は  
していませんが、眺めているだけ  
でなかなか注意は出来ません。店  
員さんかなり気にはしているよ  
うでしたが、とうとう最後までそ

のままでした。この子どもたちが  
いるんな場所で、このように傍若  
無人に振る舞っているのかと思う  
とちよっと心配になってきました。

さて、この時子どもたちはいつ  
たいどんなことを学んでいるので  
しょうか。「どんな場所でも周り  
の人のことは関係なく自分たちの  
楽しいことであれば続けてもいい  
んだ」と勘違いしてしまっている  
のではないのでしょうか。

このお母さん方もきつと、普段  
は子育てにご苦労しているのだと



思います。少し振りに会ったの  
でしょうか、あまりに話に熱中し  
すぎていて、子どもたちの様子や  
周囲の人たちへの配慮が足りなく  
なっていたようです。子どものこ  
とは放っておいてしばらく話に集  
中したくなる気持ちはわからない  
でもないですが、ちよっと場所が  
悪かったのかもしれない。

そんな子どもたちの様子に気が  
ついたら、子どもを自分のそばに  
座らせて「そんなに動き回ったら  
他のお客さんに迷惑がかかるでし

よ。他のお客さんも気持ちよく食  
事をしたいんだから動き回ったら  
だめですよ。」と話してやること  
が必要だったでしょう。それでも取  
まらなければ、自分たちのおしゃ  
べりはおしまいに子どもとの社  
交場ではないレストランから早々  
に引き上げなければならなかった  
でしょう。自分たちも食事をした  
り、楽しいおしゃべりをしたりす  
ることも大切ですが、他のお客さ  
んの迷惑になってはいけません。  
他のお客さんも同じように楽しく  
食事をしたいのですから子どもた  
ちも静かに座っていることは当然  
のことです。このことは親が教え  
てやらなければ子どもたちに出来  
るはずがありません。

レストランでのマナーに限ら  
ず、毎日毎日の生活の中で、折に  
触れ気がついたことを子どもたち  
に丁寧に話してやるのが大切だ  
と思います。そうしたひとつと  
つの積み重ねの中から子どもたち  
は親の考え方を知り、自分の経験  
と併せて、自分自身の価値観を作  
っていくのだと思います。

子どもたちの生活の範囲が広が  
るにつれ、話す内容も身の回りの  
ことや家族のことからしだいに仲  
間のことや社会のことなどに広  
がってきます。時や場所に依じて、  
子どもたちの意見を聞きながら  
も、親としての考えをきちんと伝  
え、子どもたちが健やかに成長し、  
社会の一員として、責任を持った  
行動ができるように、大人として  
の責任を果たしていくことが大切  
ではないでしょうか。

# 伝言板

## 富士北麓・東部地域振興局健康福祉部(大月保健所)

「骨髓バンクドナー登録」  
に御協力をお願いします。

エイズに対する  
意識を深めましょう

白血病、再生不良性貧血、  
先天性免疫不全症などの血液  
難病は、以前は有効な治療法  
がなく治りにくい病気でした  
が、骨髓移植という治療法に  
より健康を取り戻せるようにな  
りました。しかし、これらの  
患者さんをひとりでも多く  
救うためには、多くの「いのち  
のボランティア」といわれる骨  
髄提供者を必要とします。

厚生労働省が三カ月毎に発  
表している報告によりますと、  
前回報告された新規の、H I  
V感染者数は一四九件、エイ  
ズ患者数は七十七件でした。  
一見、少ない印象を与えま  
すがこの数は、検査を受けた方  
の中からの感染者数なのです。  
H I Vの感染は検査をしな  
ければ判りませんので、心配  
があっても検査をしない方や、  
感染していても気づかないで  
生活している方たちは見逃さ  
れています。そういう意味で  
は、真の感染者数を表してい  
るとは言えません。

ドナー登録ができる方は、  
年齢が二十歳から五十歳まで  
の健康な方(体重男性四十五キ  
ロ以上、女性四十キロ以上)骨  
髄提供の内容を十分理解して  
いる方、登録について家族の  
同意を得ている方です。

また、この報告は、若い人た  
ちの感染拡大も心配しています。  
「感染予防はコンドーム」という  
知識をもっている方も、それが行  
動に移されていないからです。

県内の登録窓口受付機関は、  
山梨県骨髓データセンターを  
始め、身延、吉田、大月保健  
所で行っております。これら  
の機関においては、来所され  
る方に、事前の予約をお願い  
しております。御理解、御協  
力を御願いたします。

十二月一日は「世界エイズ  
デー」です。今年度の主題は、  
「エイズ 目を反らさないで考  
えてみよう!」です。エイズ  
を自分の問題として捉えて欲  
しいと思います。検査は保健  
所で匿名で受けられます。積  
極的に気軽にご相談ください。

問合先 健康福祉部 ☎(22)7825

問合先 健康福祉部 ☎(22)7825